

## 2. 食糧問題（国際編）

●現状（FAO（国連食糧農業機関）などの報告から）

- ・毎日3万人（毎年1000万人）の子どもが餓死
- ・飢餓人口は約9億人（世界の7人に1人は飢えている）

●世界中には食べ物が足りないの？

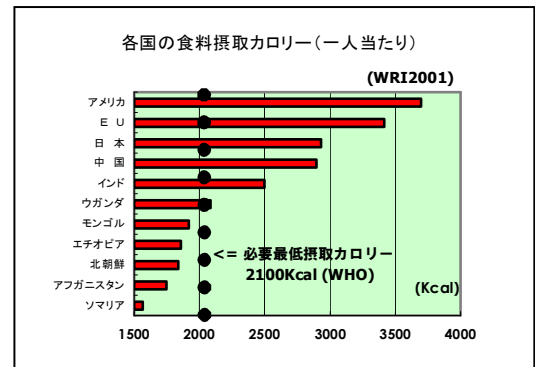
- ・穀物の生産量は年間22億トン  
22億トン（年間穀物生産量） ÷ 69億人（世界の人口） ⇒ 約320kg（1人当たり）  
※1人当たり1年間の標準量は 180kg  
⇒世界中の人が生きていくのに必要な量のおよそ2倍生産されている

●食料が不足している原因は

豊かな国の人々が

- ・飽食していること（カロリーで2倍）
- ・肉食をしていること（穀物で2倍）  
\*肉食は10人分の穀物を消費することになる
- ・食糧を無駄に捨てていること  
\*食べ残し、消費期限切れなど、日本は全食糧の26%を捨てている。
- ・豊かな人々（世界人口の2割）は、世界の食糧の半分以上を消費している。

⇒世界の飢餓貧困、食糧危機の原因は、豊かな人たちの飽食にある



●需要は増加

- ・人口増加；2010年69億人 ⇒ 2050年90億人  
今でも9億人が飢えているのに、さらに20億人分の食料が必要！
- ・生活の向上；肉食、加工食品へ移行 ⇒穀物や原料、エネルギー消費が増大！  
※肉1キロに必要な穀物飼料；牛肉⇒11キロ、豚肉⇒7キロ、鶏肉⇒4キロ
- ・中国の肉の消費は9倍以上に（1977年770万トン⇒2007年7150万トン）  
⇒ 穀物の輸出国から輸入国に転落！ 多くの途上国も同じ事が起きる可能性！

●今後、供給は減少する

●農地の減少と劣化

- ・工業化；工業用地のため農地が減っている。大気汚染、水質汚染、土壌汚染
- ・都会化；アスファルト、コンクリート、車道、ビル、住宅のため農地が減少
- ・土地の酷使；機械化、農薬、連作、過放牧、森林破壊、土壌流出

●水不足；灌漑用水の限界、すでに世界で約7億人が慢性的な水不足

●地球環境問題；最大の問題は地球温暖化

- ・気候変動（温度上昇、海面上昇、豪雨、干ばつ）は農業に大打撃
- ・すでに異常気象により、ロシアでは穀物輸出禁止が発生

- ・世界各地の異常気象の影響で、国連食糧農業機関（FAO2003）による世界の穀物在庫は、過去約20年間で最低水準。  
サハラ砂漠以南のアフリカ諸国など世界38カ国で深刻な食糧不足

●今後の世界の食糧は？

- ・中国だけでも 2030年2～3億トン（約6～10億人分）不足
- ・アジア全体で 2020年5億5千万トン（約18億人分）不足
- ・異常気象などマイナス要因が多く、増産の見込みはない
- ・2010年以降、世界全体で食糧危機が始まる！  
⇒ 自給率の低い日本はきわめて危険！

●漁獲量も減少している

- ・乱獲による減少
- ・地球温暖化による海水温の変化、海流の変化
- ・海洋汚染、化学物質により生殖異常、大量死
- ・オゾン層破壊による有害紫外線Bの増加でプランクトンの減少  
⇒ 日本は世界の水産物の約10%を輸入している  
⇒ 輸入大国の日本は非常に危険！

●飽食のために健康と生命が失われている

- ・飽食のために、世界の肥満人口は12億人  
⇒ ガン、心臓病、脳卒中、糖尿病が増加  
⇒ 先進国の死亡原因の半分以上を占めている
- ・遠距離輸送や輸入食糧が増加  
⇒ 冷蔵庫、防腐剤、防腐加工が不可欠  
⇒ 自分の身体を害し、健康を害している
- ・豊かになり、私たちは健康や未来を失っている

●私たちに必要なこと

- ・日本は食料自給率が低い（穀物自給率28%、カロリー自給率40%）ので、食糧危機に対して最も弱く、自給率のアップが急務。  
⇒ このままでは近い将来、世界的な食糧危機は避けられない  
それを防ぐためには、世界的な取り組み（世界戦略）が必要
- ・先進国は、飽食をやめ、自給自足を実現し、余剰分は自給自足できない国に対して、期限付きで支援する
- ・国連レベルでの調整（余剰食糧のストック、調整、支援）が必要
- ・国として、食料の自給自足、輸入に対して関税
- ・国として、農業に対する規制緩和、農家への助成、米の減反をやめて増産する
- ・個人として、飽食、肉食、輸入食品を減らし、国産や地元の農作物を食べる